

I 2020年度事業計画

1. 火薬類に関する調査研究

各専門部会及び委員会においては国内外で話題になっているテーマを取り上げ、学会活動の充実を図るとともに、新規テーマを掘り起こしたい。最新の試験方法の学会規格集の発行、又、ホームページを充実する。論文誌の引用回数の向上、オンライン化を図り、社員へのサービスを充実させるとともに国際化を進める。一橋講堂において11月16日(月)～20日(金)にISEM2020を開催する。

専門部会及び委員会の事業計画は次の通りである。

- (1) **爆発安全専門部会**は、高エネルギー物質などの爆発性物質の爆燃と爆ごう、そして爆発にともなう衝撃現象を中心に議論と情報交換を進める。爆発性物質の感度と威力などの安全工学的な観点も視野に入れて取り組む。部会は年4回程度開催し、このほかに年2回程度の見学会を行う。他の専門部会との講演会や研究会の共催も積極的に進める。
- (2) **発破専門部会**は、年5～6回の部会及び見学会を開催し、適宜講演会を実施する。火薬類の需要分野である構造物の小規模制御発破に関し、過去の事例を引き続き調査し、都市部での構造物解体発破への適用を模索する。また、小規模制御発破についてほかの分野との共同研究が可能であるかどうか議論する。国際会議及び国際学会にて積極的に参加し国際的に話題になっているテーマについて議論する。
- (3) **プロペラント専門部会**は、会員および関係機関の研究者が世界各国にて発表及び資料収集してきた内容に関して部会を開催して情報提供し部会員の活性化を図るとともに適宜講演会を実施する。また、会員の交流、活性化のため工場または研究施設の見学会を1回行う予定である。さらに、大学または研究機関での研究状況をアピールするために修士・卒業研究および機関研究の内容に関して発表会を開催する。
- (4) **火工品専門部会**は、火工品の基礎科学、性能および危険性に関する情報交換の部会を2～3回行う予定である。また、内外の火薬類や火工品に関する資料を収集し整理して文書化し、EXPLOSION誌に投稿する。特に研究が盛んに行われているナノエネルギー物質について調査を行う。他の専門部会との共同開催も検討する。2020年度は火工品部会開催が100回を超えることが予想されるため、秋の研究発表会等で記念イベントを開催する予定である。
- (5) **煙火専門部会**は、煙火の安全化と環境対応についての情報交換、煙火研究についての情報交換、煙火史と伝統花火技術の検討を中心に活動する。新規テーマについても探索し、それぞれの成果については文書化をはかる。今年度は、部会を4回、見学会または講演会を1回、「煙火セミナー2020」および作品発表会を開催予定している。
- (6) **爆発物探知専門部会**は、爆発物探知に関する開発、技術、運用などや、委員が必要とする共通な問題点について協議検討及び情報交換を行うと共に、講演会、探知セミナーの開催を実施する。他の専門部会との共同開催も検討する。
- (7) **ガスデトネーション専門部会**は、気体の燃焼を含めたデトネーションや爆発の問題を、研究会などを通じて研究・調査する部会である。今年度は、昨年度に引き続き、デトネーション研

研究会と共同で若手夏の学校の開催と、高速燃焼／爆発に関するワークショップの開催を予定している。

(8)爆発衝撃加工専門部会は、主として爆発衝撃加工に関連する企業、研究機関及び大学に所属する火薬学会社員の増強をはかり、独自の研究会・見学会の開催や各種の学術講演会活動の支援の推進を実施している。専門部会では、最新の研究・技術情報の交換だけでなく、広く共同研究や国際交流活動も見据えた積極的な展開を目指しており、本年度は関連組織とも連携しながら講演会、セミナーを数回実施する計画である。

(9)自動車用安全部品専門部会は、自動車用安全部品及び世界的な化学物質の規制に関する情報を共有化するとともに、火薬類を用いた新たな安全部品の開発動向を予測し、次々世代の安全部品の開発とそれに向けた産官学の連携の橋渡しを行う。2019年度に実施した自動車用安全部品の評価手法 USCAR および AK-LV の和訳が完了し、公開準備段階にある。今年度は新技術の動向調査を行い情報共有することを目的に専門部会間との合同部会開催についても実現させ、連携を強化したい。年4回以上の部会を開催、年2回以上は見学会及び講演会を開催する計画である。

(10)編集委員会は、論文誌「Science and Technology of Energetic Materials」及び学会誌 EXPLOSION 発行のため年3回の委員会を開催する。企画委員会と連携し、電子媒体の改善、過去の論文誌のアーカイブ化を進める。さらに、STEM 誌の向上に向けて査読時間の短縮を図るため査読システムを有効に活用し、インパクトファクターの向上を図る。

(11)企画委員会は、火薬学の周辺領域への啓発や連携、学会の活性化、国際化、情報セキュリティ強化のための企画を検討、推進する。また、研究発表会や ISEM2020 などの学会の各種事業についての討議を行い、関連委員会に協力する。

広報小委員会は、社員、非社員向けの情報提供など各種広報活動を行い、オンラインジャーナルの発行、学会行事の広報周知などインターネットを利用した社員への各種サービス、非社員への論文の PR などの充実を図る。

国際小委員会は、IGUS-EOS&EPP の情報を翻訳し、学会ホームページに掲載するとともにコンテンツの充実を図る。

(12)西部支部は、幹事会を3回、火薬類の基礎科学、性能および危険性に関する講演会を1回、西部地区の大学、高専の卒業および修士論文の発表会を1回開催する

(13)ISEM2020 実行委員会は、エネルギー物質に関する研究、討論、情報交換の場を提供し、本分野に関する国際的友好関係を推進する目的で開催される ISEM2020 において、さらに協賛、助成、展示・広告を拡充し、国内外の参加者の拡大を図り、火薬学会のプレゼンスを国内外にアピールし ISEM2020 を有効かつ盛大に開催する。

2.火薬類に関する研究発表会、セミナー等の開催

(1)春季研究発表会は機械振興会館において、5月21日(木)～22日(金)に開催する。

(2)秋季研究発表会は、ISEM2020を一橋講堂において11月16日(月)～20日(金)に開催するため今年度は開催しない。

(3)研究会、講演会、爆発物探知・テロ対策セミナー等を開催する。他学会の協力も得、広く火薬類に対する理解を得る。テーマ、開催日時、開催場所等は決定次第ホームページ

等を通じて案内する。

(4)その他、安全工学シンポジウム、衝撃波シンポジウム、燃焼シンポジウム、高圧討論会、火薬類の製造と保安の講習会等に共催者又は後援者として参加する。

3. 火薬学会賞の授与

火薬学会賞審査委員会において①学術賞②論文賞③技術賞及び④奨励賞を審査し、授与する。

4. 学会運営

通常総会、評議員会、理事会(年4回)、運営委員会(年5回)、専門部会長会議を開催する。諸経費の削減を図るとともに、社員の増加、広告収入等の増加に努め、学会運営の安定化をはかる。学会事務業務の効率化を図り、学会運営支援の合理化を図る。又、学会入会社員の記録、種々の委員会議事録等のPDF化を図る。